

決算発表説明資料

(2019年3月期第2四半期)

- 連結決算（経営成績）
 - 工作機械関連事業部門
 - 受注動向
 - 輸送機器関連事業部門
 - 財政状態



連結決算（経営成績）



公表＝業績予想(8/8)
(単位:百万円)

●2018年度 上期業績概要

【受注好調、増収増益】

売上高につきましては、工作機械関連事業部門の国内外における好調な受注を背景に、国内やアジアにおいて売上を伸ばし、大幅な増収となりました。

利益面につきましては、工作機械関連事業部門は増収及び原価低減施策により大幅に増益。輸送機器関連事業部門も堅調に推移したことから、全社にて大幅な増益となりました。

●2018年度 通期業績見通し

【増収増益】

9月25日及び10月30日に業績予想を上方修正しております。

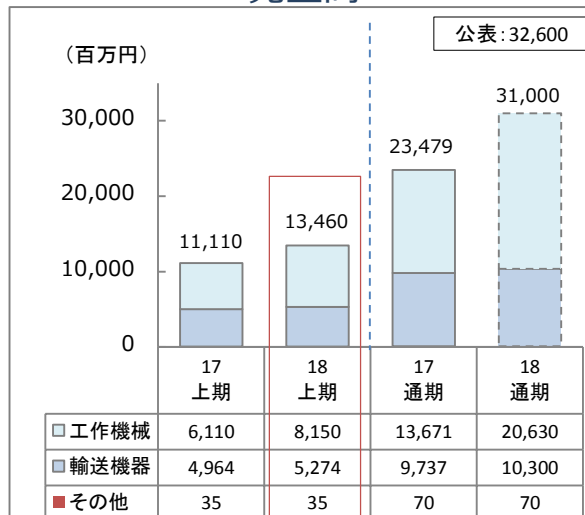
全社では工作機械関連事業部門が好調なことから、売上高31,000百万円（前期比32.0%増）、営業利益2,250百万円（前期比142.2%増）と大幅な増収増益を見込んでおります。

工作機械関連事業部門は好調な受注を背景として、システム案件の売上を多く予定していることと、原価低減施策により大幅な増収増益を見込んでおります。

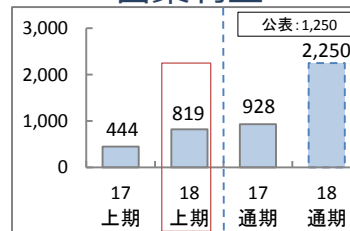
輸送機器関連事業部門も堅調に推移し、増収を見込んでおります。

【前期比較】

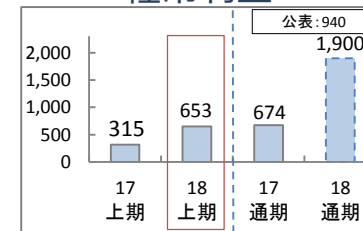
売上高



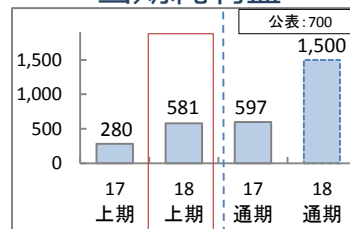
営業利益



経常利益



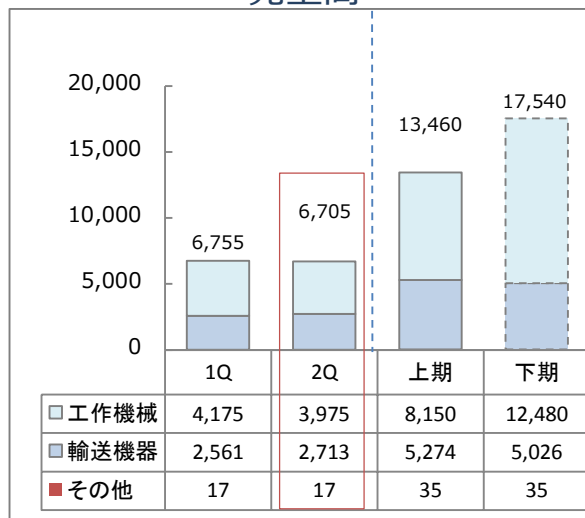
当期純利益



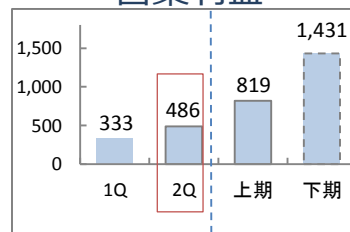
※18/通期は予測

【四半期比較】

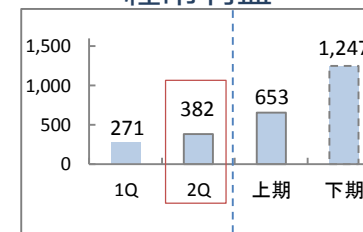
売上高



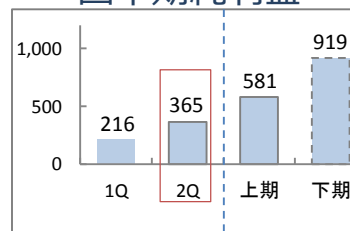
営業利益



経常利益



四半期純利益



※下期は予測

工作機械関連事業部門（経営成績）

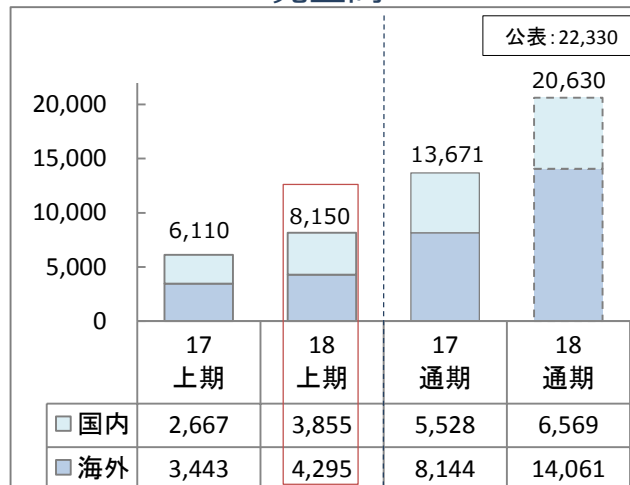
【前期比較】

● 2018年度業績 上期概要、通期見通し

好調な受注を背景として、主にシステム及び汎用機が、国内やアジアにおいて大幅に増加したことから、売上高は上期実績8,150百万円（前期比33.4%増）の増収となり、通期見通し20,630百万円（前期比50.9%増）と大幅な増収を見込んでおります。

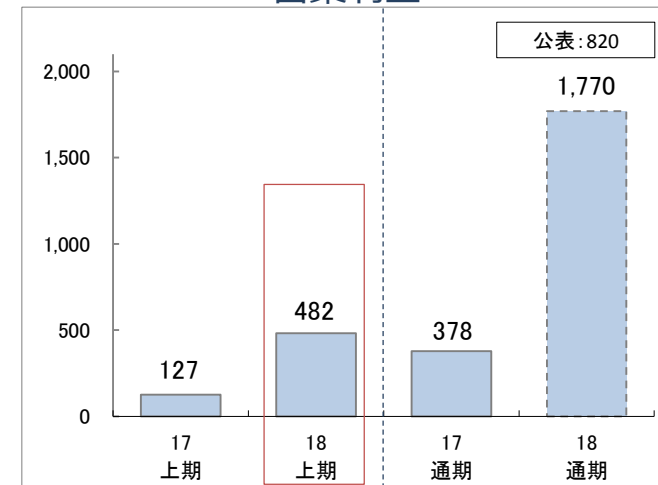
営業利益につきましては、増収に加え、システム案件において、案件毎に設計・技術面での原価低減を徹底し、製造面においても高水準な受注残高を活かし効率UPを図った結果、大幅なコストダウンを実現し、営業利益は上期実績482百万円（前期比276.9%増）、通期見通し1,770百万円（前期比367.5%増）と大幅な増益を見込んでおります。

売上高



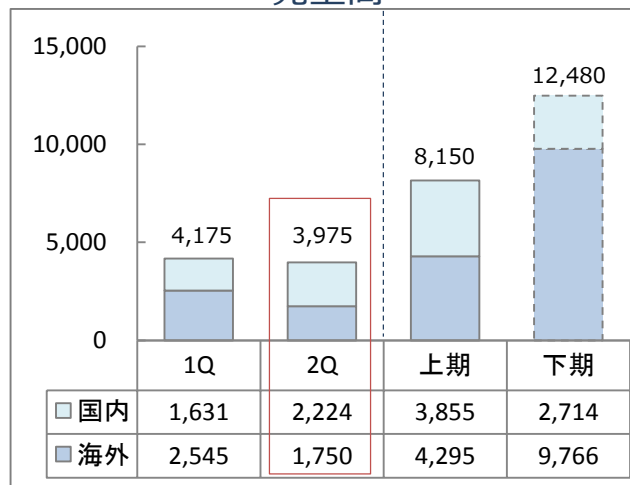
※18/通期は予測

営業利益



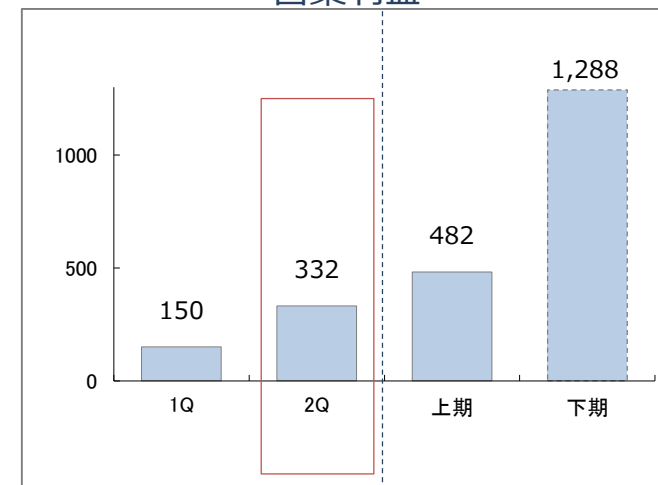
【四半期比較】

売上高



※下期は予測

営業利益



工作機械関連事業部門（受注動向）

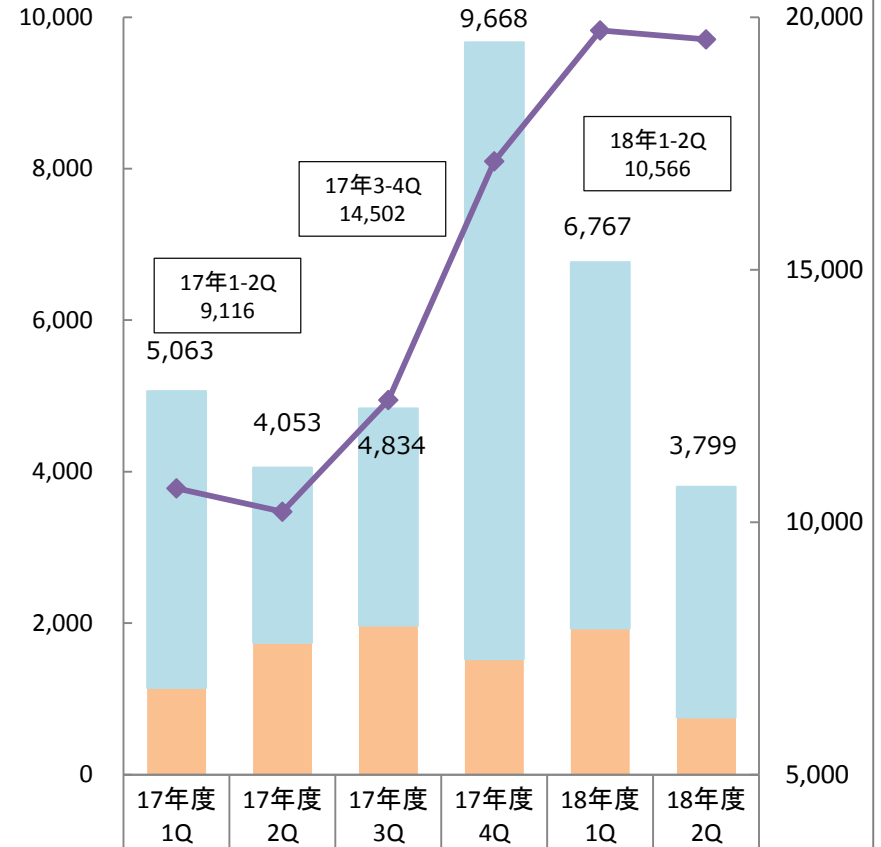
（単位：百万円）

日工会の受注推移は、中国において米中貿易摩擦の影響等により、投資鈍化への傾向が高まっておりますが、国内をはじめ北米や欧州等において、好調だった前年同期を上回る受注額となり引き続き高水準となっております。

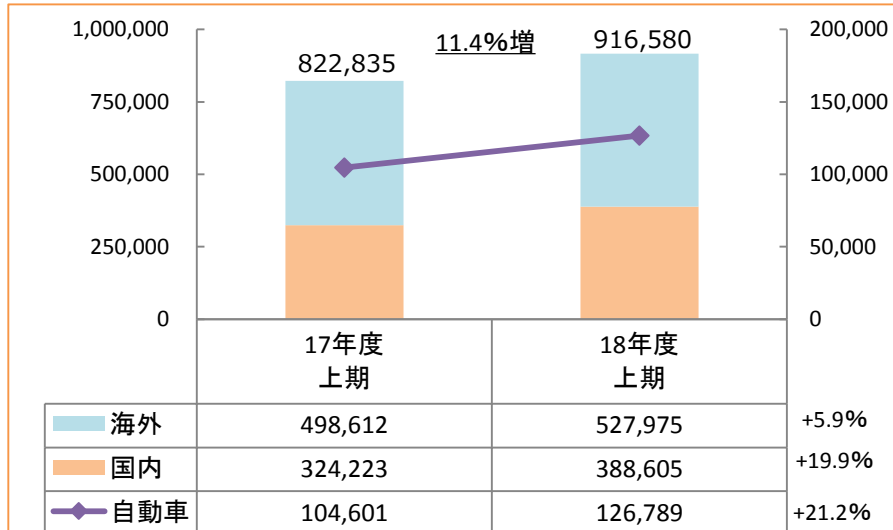
このような情勢の中、当社におきましては、中国・北米を中心に海外受注が好調を維持しております。前期4Q(1-3月)と今期1Q(4-6月)には大型案件の受注もあり受注額が大きくなっております。今期2Q(7-9月)につきましては、システム案件のズレ込みにより受注が落ち込みましたが、上期としましては105億円受注しており、堅調に推移しております。引合は多く確保しており、今下期(3Q-4Q)も100億円以上の受注を予定しております。

【四半期推移】

☆当社の連結受注高及び連結受注残高推移



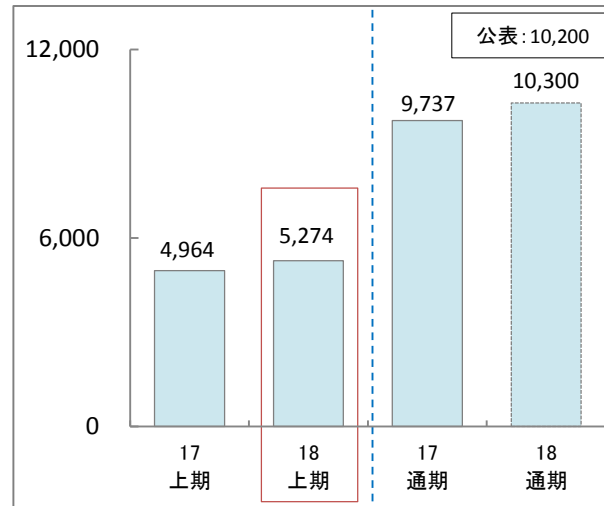
☆日本工作機械工業会受注推移



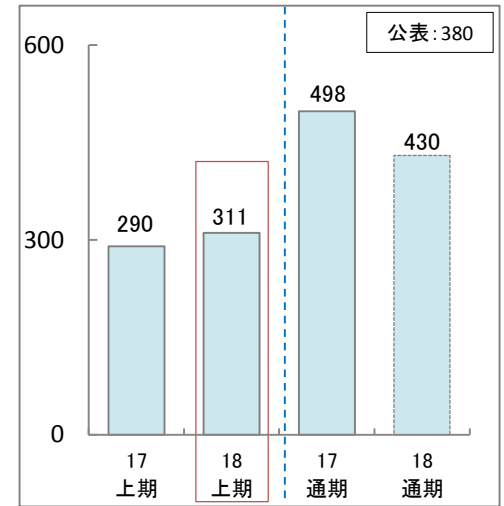
輸送機器関連事業部門 (経営成績)

【前期比較】

売上高



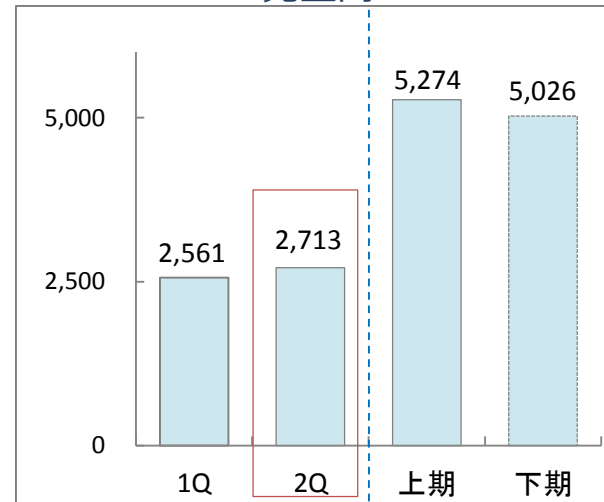
営業利益



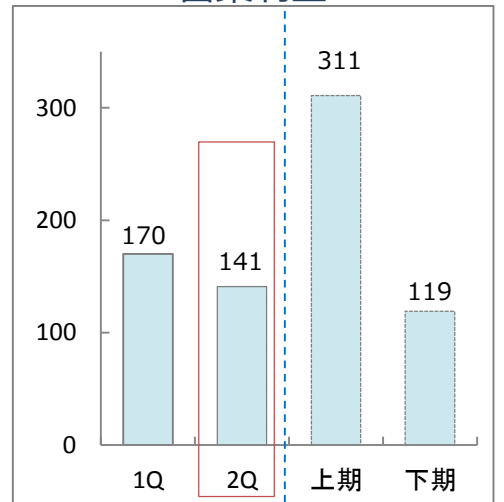
※18/通期は予測

【四半期比較】

売上高



営業利益



※下期は予測

●2018年度 上期業績概要

売上高につきましては、国内が増収し、ベトナム現地法人も堅調に推移したことから売上高5,274百万円（前期比6.3%増）となりました。

営業利益につきましては、増収に加え固定費削減や生産性向上活動の施策を継続した結果、営業利益311百万円（前期比7.3%増）となりました。

●2018年度 通期業績見通し

売上高につきましては、国内の増収に加え、ベトナム現地法人は安定した収益を見込んでおりますが、売上構成の変化により、売上高10,300百万円（前期比5.8%増）、営業利益430百万円（前期比13.8%減）を予想しております。

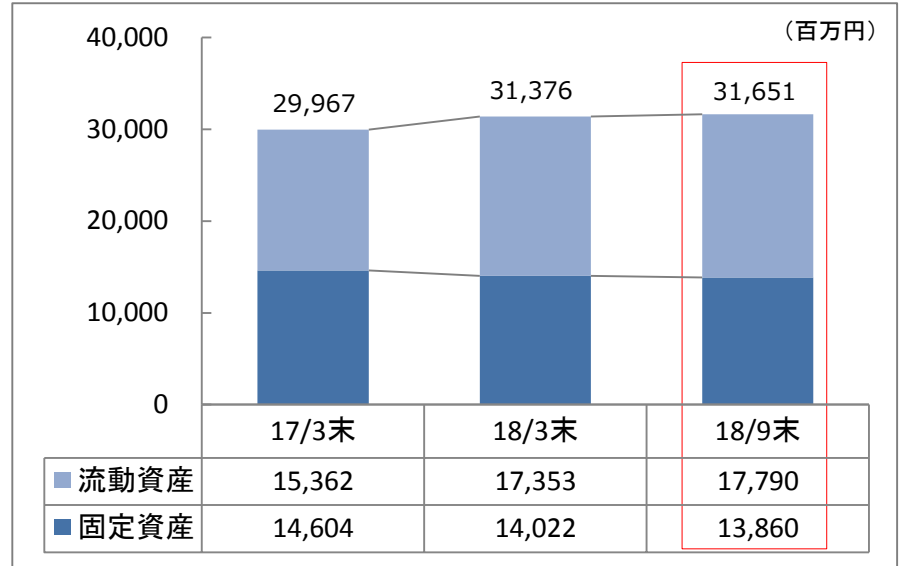
財政状態

総資産

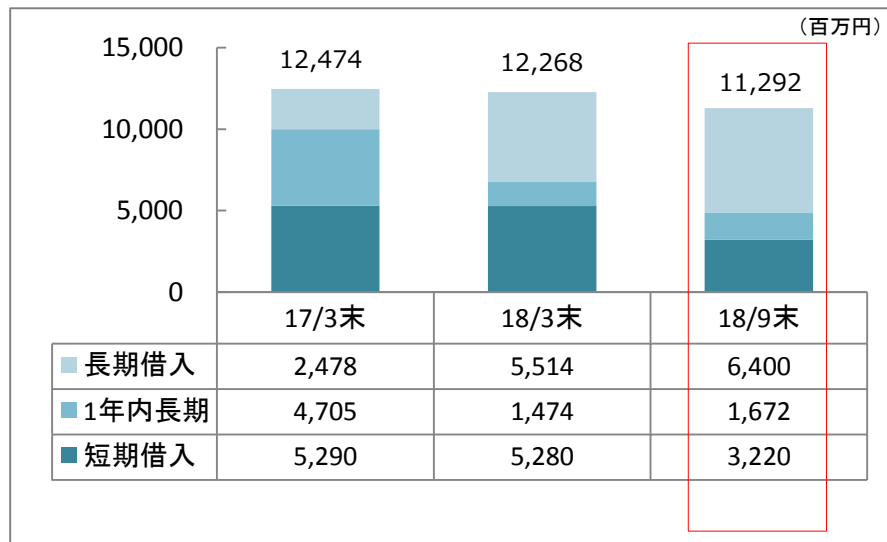
● 財政状態

売上高の増加に伴い、流動資産は前期末同様の水準となっております。

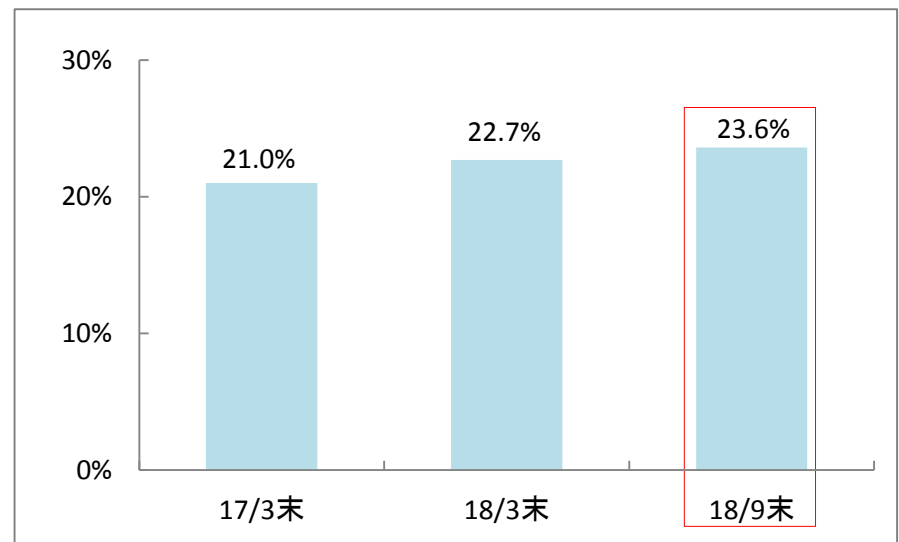
(総資産18/3末比 +275百万円)



借入金



自己資本比率



注記事項

本説明資料に記載いたしました業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、リスクや不確実性を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済状況及び製品需要の変動、為替相場の変動等が含まれます。